

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	272100850		
法人名	有限会社都和		
事業所名	グループホーム白壽		
所在地 (電話番号)	〒038-3166 青森県つがる市木造福原印元61番地1 (電話) 0173-42-7032		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 12月 6日	評価確定日	平成 20年 1月 29日

【情報提供票より】(平成 19年 11月 20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 15年 9月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	8人, 非常勤 1人, 常勤換算 7.2人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	6,000 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要( 11月 20日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 85 歳	最低	78 歳	最高	93 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	尾野病院・菊地歯科医院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

建物が一般家庭のような外観で、周辺の住宅と比べても違和感が無く地域に溶け込んでいる。管理者が看護師の資格を持っている他、栄養士の資格をもった職員もあり、専門的な視点からのケアが期待できる。リビングにはなつかしい歌や笑い声があふれ、職員は入居者を尊重しながら家族のように接していた。居室には各入居者それぞれ馴染みのものが多く持ち込まれており、思い思いの部屋作りがなされている。近くに畑があり、職員と入居者が協力して野菜などを作っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	食器茶碗をそれぞれ使い慣れた馴染みのものにするよう配慮した。食事を職員も一緒に食べてみてはとの課題で、見守りも大事ではないかと話し合い、一緒に食べる職員と喉つまりがないように見守りをする職員と分けている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	計画作成担当者が主に自己評価を行っている。外部評価については全員で内容を確認し、改善点について話し合っており取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一回会議を開催しており、利用者家族・地域の方・市職員が参加し、また民生委員、市議員を招いている。事業報告が主だが、要望や意見をだしていただけるよう努めている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	これまでに苦情は寄せられたことは無いが、入居時や面会時・電話連絡時などに意見や苦情を言っていたら返すよう繰り返し伝えている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	家族と地域の住民を招いて交流会を年一回開催している。地域のイベントや祭りにも積極的にでかけるようにしている。近所の方へは挨拶をわすれないようにし、近所の方が野菜を持ってきてくれることもある。

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で利用者本位の暮らしができるように、独自の理念を掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	会議の時などに理念について話し合い、全員で共有できるようにしている。日々のサービスに反映されるよう心がけている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	家族と地域の住民で交流会を年一回開催している。近所の方へは挨拶を忘れないようにし、近所の方が野菜をもって来てくれることがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>計画作成担当者が主に自己評価をおこなっている。外部評価については全員で確認し、改善点について話し合っている。</p>		<p>評価は一連の過程を全職員で取り組むことで、職員の意識合わせや普段のサービスの振り返りが可能となります。全職員で計画的に取り組むことが望まれます。</p>
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に一回会議を開催しており、利用者家族・地域の方・市職員が参加し、また民生委員、市議員を招いている。</p>		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>2ヶ月に一回入居者の状況を報告したり資料を送るなどしている。相談するような事案があれば、いつでも相談できる状況にある。</p>		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在制度の対象となる入居者がいないので、制度についてはまだ学んでいない。</p>		<p>制度の対象者となる入居者がいなくても、普段から制度について学ぶ機会を持ち、いつでも入居者や家族へ情報提供できる体制作りが望まれます。</p>
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止について職員と話し合い、防止につとめている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約には十分時間をかけ、利用料、重度化した場合、利用上のリスク等丁寧に説明している。料金の改定があった時も説明をしている。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月ホームの便りを写真入で作っており、家族へ送っている。入居者の状態に変化が見られたときは、その都度電話で連絡を入れるようにしている。必要なものは一時事業所が立替えて購入して、利用料請求と合わせて家族へ報告請求している。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>不満や意見等はこれまで寄せられたことは無いが、家族等へ繰り返し説明をしていつでも意見を言っていただけよう伝えている。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者はなるべく離職がないよう心がけ配慮している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へは年2・3回行っており、研修の報告会もおこなっている。研修内容はノートにまとめていつでも振り返れるようにしている。内部研修も毎月の会議に付随して介護の事や言葉遣いなどについて行っている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会へ加入して、研修会には参加するようにしている。また、管理者と知り合いのグループホームと情報のやり取りや、見学などを行っている。		
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者の希望を聞いて、家族へ電話を入れたり、時には来てもらったりして徐々に馴染んでもらうよう工夫している。事前に管理者が伺って生活歴などを聞き取り、本人に安心してサービスを利用できるよう支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の下ごしらえや、編み物、裁縫、畑作りなど入居者の趣味や生活暦を活かして、職員がおしえてもらう場面作りをおこなっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>普段のかかわりの中から入居者の希望を把握するようにし、一人ひとりの希望に沿えるようにしている。</p>		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者が会議時に職員から意見を聞いて、介護計画を作成している。本人や家族へも意見を述べてもらっている。</p>		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の状態に変化がある都度、または6ヶ月に一度見直し作成している。</p>		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>病院の付き添い。入院時には部屋を空けておいている。自宅の様子を見にいたり、買い物の希望があればすぐに対応するようにしている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それまでの入居者のかかりつけ医を優先して受診するようにしている。本人、家族の希望で受診には職員が付き添うようにしている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合の対応は連携している老人ホームへ移っていただくようにしており、入居時に説明して同意を得るようにしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
23	47	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関して、入居者の情報が外部に漏れないように来客者の前では個人情報は話さないようにするなどして気をつけている。たよりに写真をのせているが、家族の了解を得ている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日のスケジュールはあるが、本人のペースを大事にして、その人に適した行動がとれるようにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>料理の下ごしらえや、配膳など一緒に行っている。利用者の食事の好みは少人数なので皆把握できており、代替のおかずも用意するようにしている。一緒に食事を摂る職員の他に、喉つまりがないよう見守る職員もいる。食事、おやつ時間はテレビをつけないで食事を楽しんでいる。</p>		<p>入居者に喉つまりの無いよう見守る事はもちろん大切ですが、常に背後に立って見守ることで入居者に監視されているような威圧感を感じさせていないか、食事を楽しむ雰囲気壊していないか確認してみましょう。</p>
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は基本的に週に3回行っているが、希望があればいつでも入浴できる。入浴が難しいときは清拭も行っている。男性の入居者もいらっしゃるが、羞恥心に配慮して介助している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>農家をやられていた入居者が多く、一緒に近くの畑で野菜作りをしている。他にも入居者の好きなことや得意なこと生活にはりがでるよう配慮している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>ホームの近くに散歩コースがあり、職員が付き添って毎日散歩へでている。毎月一回は花見や紅葉狩りなどの外出を計画している。</p>		



外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について日々のミーティングや会議の中で話し合っており、確認し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は注意を払いながら鍵は開けておくようになっている。外へ出たい入居者がいる時は、一緒に出かけるようになっている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年一回消防署の立会いで火災を想定して避難訓練を行っている。		職員だけの避難誘導にも限界があります。消防署だけでなく、近隣の住民にも災害時対策に関する理解・協力を求め、避難訓練の参加を呼びかけてみることを望みます。
リビングには採光が十分とられ、食卓には花が飾られたりとき					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは10日ずつ職員で分担して作り、管理者がチェックをしている。体調の悪い入居者の食事量を記録している。水分補給は時間をきめて、自然にお茶をすすめるようにして採っていただいている。状態に応じて水分補給の回数を増やしている。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	普段からうがい・手洗いを励行している。感染症マニュアルを作り、会議時に全員で予防法について確認したり、感染症の通達があると全職員へ伝えて注意喚起しているが、知識の共有までには至っていない。インフルエンザの予防接種は職員・入居者共に全員行っている。		感染症の対応の取り決めが、まだ職員に浸透していないようです。マニュアルに沿って定期的に勉強会を開催することが望まれます。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
		居心地のよい共用空間づくり			
34	78	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じる装飾を心がけており食卓には花が飾られていた。リビングには採光が十分とられ、不快な音や匂いなどは無い。トイレは空間を広くとっており、車椅子のかたでも使いやすい。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮			
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみのものが多く持ち込まれており、自宅さながらのその人らしい居室作りがなされている。		

 は、重点項目。